

安全データシート

【JIS Z7253 (2025) 準拠】

作成日: 1998年 2月1日
改訂日: 2026年10月1日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	フルピカくん煙剤
整理番号	KF044-10
会社名	クミアイ化学工業株式会社
住所	〒110-8782 東京都台東区池之端一丁目4番26号
担当部署	サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号	03-3822-5180
FAX番号	03-3823-6830
ホームページアドレス	https://www.kumiai-chem.co.jp/
緊急連絡電話番号	03-3822-5180 平日 午前9時～午後5時
推奨用途	農薬
使用上の制限	推奨用途以外への使用は禁止する。

2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類

健康有害性	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2B
	発がん性	区分 1A
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分 1 (呼吸器系)
		区分 2 (腎臓、血液)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分 1 (呼吸器系、腎臓)
		区分 2 (脾臓、肝臓)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性)	区分 2
	水生環境有害性 長期(慢性)	区分 2

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

【健康有害性】

- H320 眼刺激
- H350 発がんのおそれ
- H370 臓器の障害 (呼吸器系)
- H371 臓器の障害のおそれ (腎臓、血液)
- H372 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (呼吸器系、腎臓)
- H373 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (脾臓、肝臓)

注意書き

【環境有害性】

- H401 水生生物に毒性
- H411 長期継続的影響によって水生生物に毒性

【安全対策】

- P203 使用前に全ての安全説明書入手し、読み、従うこと。
P260 粉じん/ミストを吸入しないこと。
P264 取扱い後は手をよく洗うこと。
P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/を着用すること。
P264+P265 取扱い後は手及び顔をよく洗うこと。眼を触らないこと。

【応急措置】

- P318 ばく露又はその懸念がある場合は、医学的助言を求めること。
P319 気分が悪いときは、医療処置を受けること。
P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P333+P317 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
P308+P316 ばく露又はその懸念がある場合：すぐに救急の医療処置を受けること。

【保管】

- P405 施錠して保管すること。

【廃棄】

- P501 内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	メパニピリム		
		(w/w)	CAS RN
成分及び含有量	メパニピリム	15 %	110235-47-7
	塩素酸カリウム	12 %	3811-04-9
	結晶質シリカ	< 0.2 %	14808-60-7
	硝酸アンモニウム	12 %	6484-52-2
	鋳物質等	60 %	営業秘密
官報公示整理番号			
化審法	1-229	塩素酸カリウム	
	1-548	結晶質シリカ(二酸化ケイ素)	
	1-395	硝酸アンモニウム	

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医療処置を受けること。
皮膚に付着した場合 : 汚染された衣類を脱ぐこと。多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合：医療処置を受けること。
眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。医療処置を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 霧状の水、炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	: 情報なし
特有の消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。消火作業は風上から行う。 周辺火災の場合、速やかに容器を安全な場所に移す。移動できない場合、 容器に放水し、冷却する。
消火活動を行う者の特別な 保護具及び予防措置	: 燃焼により毒性・有害性ガスを発生するので、自給式呼吸器を含む消火保護具を 着用のこと。風上に立ち蒸気を避ける。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	: 作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を 参照の事。 人を退避させ、飛散・漏出した周辺にロープを張り、「立入禁止」及び「火気厳禁」の 措置を行う。 眼、皮膚、衣類につけないこと。十分な換気を確保する。風上から近づく。
環境に対する注意事項	: 排水溝または水路への侵入を防ぐ。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	: 漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。必要なら砂等をまいてできるだけ回収する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	: 作業の際は、保護具を着用する。保護具については「8. ばく露防止及び保護措置」を 参照の事。 取扱い後は手及び顔をよく洗うこと。粉じん、ヒュームを吸入しないこと。 作業所の十分な換気を確保する。眼、皮膚、衣類につけないこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い中は、火気を近づけない。ラベルに記載以外の用途に使用しない。 点火する際は、農業用マスク、手袋及び長袖作業衣を着用し、発煙を確かめたら、直ちに ハウスや倉庫等から退室する。 くん煙中は、室内へ入ってはならない。又、くん煙終了後、入室する時はあらかじめ 出入口や窓等を開放し、十分に換気をする。 かぶれやすい体質の人は、取扱いに十分注意する。又、呼吸器官の弱い人、病中・ 病後の人は、使用してはならない。
接触回避	: 「10. 安定性及び反応性」を参照のこと。
保管	
安全な保管条件	: 火気や直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない涼・乾燥した場所に 施錠して保管すること。密閉容器に保管すること。 医薬用外劇物であり、盗難・紛失の際は、警察に届け出ること。
安全な容器包装材料	: データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
混合物: 鉱物性粉じん $E=3.0 / (1.19Q+1)$ E: 管理濃度 (mg/m ³) Q: 当該粉じんの遊離けい酸含有率(%)	
許容濃度等	
日本産衛学会(2025年度)	: 吸入性結晶質シリカ: 0.03 mg/m ³
ACGIH	: 結晶質シリカ: 0.025 mg/m ³ (Respiratory fraction) (2021年)
設備対策	: 屋内使用の場合、装置を密閉化し、局所排気装置又は全体排気装置を設置する。 取扱い場所の近くに、シャワー・洗眼器を設置する。
保護具	
呼吸用保護具	: 農業用マスク
手の保護具	: ゴム・塩ビ等の不浸透性手袋
眼の保護具	: ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	: 長袖・長ズボンの作業衣

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	: 発煙性中空円板状
色	: 類白色
臭い	: データなし
融点／凝固点	: データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	: データなし
可燃性	: データなし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: くん煙剤であるので、約200℃以上で発煙し、薬剤を放出する。
分解温度	: データなし
pH	: データなし
動粘性率	: データなし
溶解度	: 水: 一部溶解する。
n-オクタノール／水分配係数(log値)	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度	: > 1 g/cm ³ (嵩密度)
相対密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: データなし
化学的安定性	: 通常の条件下では安定
危険有害反応可能性	: データなし
避けるべき条件	: 直射日光、高温、熱
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 燃焼によって、有害ガスを生成する。

11. 有害性情報

急性毒性

急性毒性(経口) : 区分に該当しない LD₅₀ >5000 mg/kg (雌雄 ラット)

急性毒性(経皮) : 区分に該当しない LD₅₀ >2000 mg/kg (雌雄ラット)

急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)

: 区分に該当しない LC₅₀: >5.13 m/L (ラット 4時間)

皮膚腐食性/刺激性 : 区分に該当しない 刺激性なし(ウサギ)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

: 眼刺激性 中程度の刺激性。区分2B (ウサギ)

洗眼の場合、軽度の刺激性(ただし、成型前の顆粒の状態で実施した)。

呼吸器感受性 : データ不足のため「分類できない」とした。

皮膚感受性 : 区分に該当しない 感受性なし(モルモット)

生殖細胞変異原性 : 混合物のデータがないため「分類できない」とした。

(参考) メパニピリム

マウス骨髄細胞を用いた*in vivo* 小核試験、*in vivo* ラット骨髄細胞染色体異常試験において陰性であった。

発がん性 : 混合物のデータはないが、結晶質シリカ0.1%以上を含むため、「区分1A」とした。

(参考) メパニピリム

マウスを用いた発がん性試験において、雄雌に肝細胞腺腫及び肝細胞がんの増加、ラット発がん性試験において、雄に肝細胞線種の明確な増加が認められ、催腫瘍性があるとされ、区分2に分類されている。

生殖毒性 : 混合物のデータがないため「分類できない」とした。

(参考) メパニピリム

ラットを用いた次世代繁殖性試験ならびに催奇形性試験、ウサギを用いた催奇形性で、繁殖や胎児異常発生頻度には投与による影響はみられない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分1(呼吸器系)

区分1(呼吸器系)の結晶質シリカを10%以上含有することから、区分1(呼吸器系)とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分2(腎臓、血液)

区分2(腎臓、血液)の塩素酸カリウムを10%以上含有することから、区分2(腎臓、血液)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(呼吸器系、腎臓)

区分1(呼吸器系、腎臓)の結晶質シリカを10%以上含有することから、区分1(呼吸器系、腎臓)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分2(脾臓、肝臓)

区分2(脾臓、肝臓、腎臓)のメパニピリムを10%以上含有することから、区分2(脾臓、肝臓)とした。

誤えん有害性 : データ不足のため「分類できない」とした。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

: 混合物のデータはないが、メパニピリムは甲殻類に対して区分1に分類されるが、加算法により、区分2相当に分類された成分を25%以上含有することから、区分2とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

: 混合物のデータはないが、メパニピリムによる急性有害性が区分1に分類されるが、加算法により、区分2相当に分類する成分を25%以上含有すること、また、急速分解性に関するデータが得られていないことから、区分2とした。

(参考) メパニピリム

LC50 - 魚 4.68 mg/L (Cyprinus carpio、96hr)

EC50 - 甲殻類 0.889 mg/L (Daphnia magna、48hr)

ErC₅₀ - 藻類 2.74 mg/L (Raphidocelis subcapitata、72hr)

その他

(参考) メパニピリム

ミツバチに対する影響: 処理翌日導入で影響なし(製剤15 g/100 m³)

マルハナバチに対する影響: 処理翌日導入で影響なし(製剤15 g/100 m³)

残留性・分解性

: データなし

生態蓄積性

: データなし

土壌中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: データ不足のため「分類できない」とした。

他の有害影響

: くん煙中は、魚介類を飼っている水槽等を置いてはならない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

国の関連法規並びに地方自治体の規定に従うこと。処分を委託する場合は、廃棄物の内容を明確にし、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に危険性、有害性を十分に告知の上処理を委託する。

汚染容器及び包装

容器は関連法規並びに地方自治体の規定に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

: IMO の規定に従う。

航空規制情報

: ICAO/IATA の規定に従う。

国連番号

: 3077

品名(国連輸送名)

: 環境有害物質(固体)

国連分類

: 9

容器等級

: III

海洋汚染物質

: 該当

輸送又は輸送手段に関する

特別の安全対策

: 荷役中の取扱いは、慎重丁寧に行い、手かぎの使用・転倒・落下・衝撃等により容器を傷め、内容物を飛散させてはならない。
輸送中は、直射日光や雨水の浸透を防止するため、被覆すると共に、容器を動揺、摩擦、転倒、落下が起こらないように積載・輸送する。

国内規制

陸上規制

: 道路法、消防法、労働安全衛生法及び毒物及び劇物取締法等の関係法令に該当する場合は、それぞれの規定に従う。

海上規制情報

: 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報

: 航空法の規定に従う。

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条 労働安全衛生規則別表第2)

: 結晶質シリカ
: 硝酸アンモニウム
: 塩素酸カリウム

名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2、労働安全衛生規則別表第2)

: 結晶質シリカ
: 硝酸アンモニウム
: 塩素酸カリウム

がん原性物質(安衛則)(作業記録等の30年保存対象物質)

: 結晶質シリカ (石英)

危険物 (酸化性の物)(施行令別表第1第3号)

: 硝酸アンモニウム
: 塩素酸カリウム

毒物及び劇物取締法 : 劇物

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)

: 該当 (塩素酸並びにそのカリウム塩及びナトリウム塩)

農薬取締法 : 該当

16. その他の情報

参考文献

原料メーカー提供の「安全データシート」
メパニピリム 農薬抄録(2015年)
NITE-CHIRP NITE統合版 政府によるGHS分類結果
JIS Z 7252:2025 GHSに基づく化学品の分類方法
JIS Z 7253:2025 GHSに基づく化学品の危険有害性の情報伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
作業環境評価基準 平成21年厚生労働省告示第195号 平成21年3月31日
許容濃度等の勧告 産業衛生学雑誌 67巻5号183～215頁(2025年)
ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices (2021)

作成部署以外の緊急連絡先

(公益財団法人) 日本中毒情報センター

大 阪(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	072-726-9923
つくば(年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	029-851-9999

※通話料は相談者のご負担となります。

注意

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。